

## Working Paper Series

No. 68

高年齢層の性的指向・性自認のあり方を量的調査でいかに捉えるか  
—認知インタビューの分析結果から—

Asking Older Adults about Sexual Orientation and Gender Identity in Social  
Surveys: Findings from Cognitive Interviews

平森大規・小山泰代・釜野さおり・千年よしみ・布施香奈・  
三部倫子・岩本健良・武内今日子・申知燕

HIRAMORI Daiki, KOYAMA Yasuyo, KAMANO Saori, CHITOSE Yoshimi, FUSE Kana,  
SAMBE Michiko, IWAMOTO Takeyoshi, TAKEUCHI Kyoko, and SHIN Jiyeon

2023年11月

[https://www.ipss.go.jp/publication/j/WP/IPSS\\_WPJ68.pdf](https://www.ipss.go.jp/publication/j/WP/IPSS_WPJ68.pdf)



〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6階

<https://www.ipss.go.jp>

本ワーキング・ペーパーの内容は全て執筆者の個人的見  
解であり、国立社会保障・人口問題研究所の見解を  
示すものではありません。

## 高齢層の性的指向・性自認のあり方を量的調査でいかに捉えるか

—認知インタビューの分析結果から<sup>1</sup>—

平森大規<sup>i)</sup>・小山泰代<sup>ii)</sup>・釜野さおり<sup>iii)</sup>・千年よしみ<sup>ii)</sup>・布施香奈<sup>ii)</sup>・  
三部倫子<sup>iii)</sup>・岩本健良<sup>iv)</sup>・武内今日子<sup>v)</sup>・申知燕<sup>vi)</sup>

近年、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（LGBT）を含む性的マイノリティへの関心が国内外で高まっており、量的調査において性的指向・性自認のあり方（SOGI）を把握することの重要性が増している。このような状況の中、SOGIの測定法に関する方法論的研究は日本でも実施されはじめているが、SOGIに関する知識をあまりもたないと考えられている高齢層に関する方法論的研究は行われていない。しかしながら、人口における高齢者の割合が増加する中で、高齢層のSOGIを把握する必要性は高まっている。そこで本研究では、60代以上の18名を対象に認知インタビューを実施し、量的調査におけるSOGI設問をどのように理解しているかを検討した。その結果、高齢層はSOGIに関わる用語を正しく理解していないことが多いものの、そのことが原因で回答を誤ることは少ないことがわかった。また、高齢層特有の現象として、現在誰に対しても恋愛感情を抱いていない回答者が、みずからの性的指向アイデンティティとして他者に性愛感情を抱かないアセクシュアルを選択することが示唆された。全体として、認知インタビューは量的調査における設問改善にあたって有用であることが示された。

キーワード：性的指向・性自認のあり方、高齢層、測定、認知インタビュー、調査方法論

---

i) 法政大学

ii) 国立社会保障・人口問題研究所

iii) 奈良女子大学

iv) 金沢大学

v) 東京大学

vi) 昭和女子大学

<sup>1</sup> 本論文は、日本人口学会第74回大会において発表した報告「社会調査における高齢層のSOGIの捉え方」（小山泰代）および、ドイツ日本研究所主催の国際ワークショップにおいて発表した報告「Methodological Study to Quantitatively Capture Intimate Relationships and Singlehood beyond Cisgender Heterosexual Individuals: Findings from Cognitive Interviews with Older Adults」（平森大規）をもとにしたものである。本研究は、JSPS 科研費 JP21H04407 「性的指向と性自認の人口学の構築——全国無作為抽出調査の実施」の助成を受けた。

## I. はじめに

量的調査を実施するにあたって、調査票の適切な設計が重要であることはよく知られている。日本で出版されている社会調査法の教科書においても、調査票の構成やワーディングについて詳細に解説しているものが多い（盛山 2004; 轟ほか編 2021）。ところが、これらの教科書では一度作成された調査票を系統的に評価する手法について詳細に取り上げられることが少なく、日本においては一度作成した調査票を実査前に改善する手法が広く利用されていないことが推測される。一方、アメリカをはじめとする諸外国で出版されている社会調査法の教科書においては、実査の前に予備調査を行い、調査票案の評価を行うことの必要性が強調されている。こういった評価を行う際の手法の一つとして多くの教科書で取り上げられているのが認知インタビュー（cognitive interviewing）<sup>2</sup>である（Carr et al. 2018: 342; Neuman 2011: 350-1）。認知インタビューとは、「調査票に回答してもらいながら、その際の思考プロセスについて回答者にたずねたり、回答者に「思考を声に出して」もらったりすることによって、調査票を検討し、改善しようとするパイロット調査で使われる手法」（Neuman 2011: 350）である。

こういった認知インタビューの実施が特に効果的である分野として、量的調査における性的指向・性自認のあり方（SOGI）の測定法があげられる。近年、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（LGBT）を含む性的マイノリティに対する社会的・学術的関心が高まっている一方で、量的調査において回答者の SOGI をいかにとらえるかに関する方法論的研究は限られている。このような方法論的研究が必要な大きな要因として、一般人口を対象とした調査では多くの回答者が性的マイノリティではなく、SOGI に関する用語に馴染みがないため、回答者の SOGI の正確な測定が困難なことがある。このような背景から、SOGI を日本の量的調査でいかにとらえるかに関する方法論的研究が少数ではあるが行われてきた（Hiramori and Kamano 2020; Hiramori, Kamano, and Iwamoto 2021）。

これらの研究は量的調査における SOGI の測定法について重要な知見をもたらしたが、60 代以上の高年齢層については検討されていないという欠点がある。従来、高年齢の人びとに本人の SOGI をたずねる質問をすることは推奨されてこなかった。その理由は、高年齢の人びとにとって、このような質問は何をたずねられているのかを理解することが難しく、質問の内容が機微に触れると思われる、回答を拒否されるのではないかと考えられてきたからであった。実際、日本で行われた SOGI に関わる調査でも、SOGI をたずねる質問に対しては「質問の意味がわからない」を選択する人や無回答の人は高年齢の人びとほど多くなる傾向がみられた（Hiramori and Kamano 2020）。しかし、米国の無作為抽出調査では、SOGI をたずねる質問に対する高年齢の人びとの無回答は少なく、しかも年々減っている傾向にある（Fredriksen-Goldsen and Kim 2015）。むしろ、高年齢の人びとの間に存在する SOGI にかかわる不平等を明らかにするためには、量的調査で SOGI をたずねる質問を含めることが大切だという主張もなされている（Fredriksen-Goldsen and Kim 2017）。また、高年齢層に SOGI 設問をたずねないことは性的マイノリティ高年齢者を不可視化することにもつながる。日本においても「性的マイノリティの高齢期における諸課題」（西村 2022: 341）

<sup>2</sup> 「認知インタビュー」という用語は社会調査法の文脈の他に犯罪調査における事情聴取法の文脈で用いられることもあるが、両者の間には手法が発達してきた歴史的経緯という観点からも研究成果の相互交流という観点からも関連性はほとんどみられない（Willis 2005: 5）。

が注目されはじめており、高年齢層の SOGI にかかわる研究が必要になると見込まれる。

そこで本研究では、認知インタビューの手法を用いて、一般人口向けの無作為抽出調査における調査票に含まれる SOGI に関する設問を高年齢の人びとがどのように理解するのかを検討する。以下では、まず認知インタビューの特徴を解説する。次に、本研究で行った認知インタビューの方法を説明する。その後、認知インタビューの分析結果を示す。最後に、分析結果を踏まえた上で総合的考察を行う。

## II. 認知インタビューとは何か

認知インタビューを用いた研究の第一人者である Gordon B. Willis (2005: 6-7) によると、認知インタビューには以下のような 13 の特徴がある。第 1 に、認知インタビューを実施するにあたっては、調査対象者が調査票に回答するにあたってどのような認知的プロセスをもって回答しているのかに注目する。特に、CASM (Cognitive Aspects of Survey Methodology、量的調査方法論における認知的側面) 分野における調査回答の 4 段階モデルという観点から、調査票への回答プロセスには (1) 設問の内容を理解する段階、(2) 設問に答えるために必要な情報を記憶から取り出す段階、(3) 回答の社会的望ましさを踏まえてどのような回答を行うかの意思決定を行う段階、(4) たどり着いた回答を設問にある選択肢のフォーマットに合わせるなどして実際に回答を行う段階の 4 段階があると想定されている (Tourangeau 1984)。

例えば、「この 1 か月間、どれほどの頻度でお酒を飲みましたか。」という設問に答えるためには、回答者が直近「1 か月」についてたずねられているということ、「お酒」にはどのような飲み物が含まれるのかという要素を理解する必要がある、また設問全体として何を聞いているのかの意図も理解する必要がある。また、飲酒に関する過去 1 か月の記憶を思い出す必要がある。さらに、その後実際にどのような回答を行うかの意思決定を行う。例えば、回答者によっては、直近 1 か月は病気で入院しており一切飲酒していなかったものの普段は週に数回お酒を飲んでいるということを示すために、通常の状態に照らし合わせて回答する可能性がある。その後、自らの回答と調査票で示されている選択肢を照らし合わせて、あてはまる項目を選択する。

第 2 に、認知インタビューは調査票案の作成と実査の間にプリテストとして実施されることが多い。第 3 に、認知インタビューは専門のトレーニングを受けた調査者が回答者に対してインタビューを行う形で実施される。第 4 に、認知インタビューでは、実際の本調査対象者のうち特定の集団 (本論文であれば高年齢層) に対象者を絞ることが多い。第 5 に、認知インタビューでは思考発話法 (think-aloud) および口頭プロービング法 (verbal probing) という 2 つのテクニックが用いられる。思考発話法では、回答者が設問に回答する際に「何を考えながら回答しているのか教えてください」、「そのまま話し続けてください」などと調査者が問うことで回答者の思考プロセスを口に出してもらい、調査者はそこで得られた言葉を分析し、設問の問題点およびそれが発生する認知的要因を特定する。一方、同様の問題点が複数の認知インタビューにおいて見つかった場合には、より焦点化させた質問をたずねる口頭プロービング法を用いることができる。近年の認知インタビューでは、回答者にとって慣れない作業である設問への回答プロセスを口に出してもらおうという非効率な思考発話法よりも、回答プロセスのうちの一部に的を絞った質問を使用する口頭プロービング法を用いることが多い。

第6に、口頭プロビング法を利用するにあたっては、さまざまなタイプの質問が用いられる（本論文における認知インタビューで実際に使用された質問については、付録の「認知インタビュープロトコル抜粋」を参照のこと）。第7に、認知インタビューでは単に調査票を検討するのみでは分かりにくい「隠れた」問題についても検討する。第8に、認知インタビューは心理学実験室等の環境で行われることが多いものの必ずしもそういった環境が必要というわけではない。第9に、認知インタビューでは通常1ラウンドあたり5~15人にインタビューを行う。第10に、各ラウンド後の検討後にはさらに追加で認知インタビューを実施するなど、1ラウンドのみで終わらせるのではなく反復的にインタビュー調査を行うことがしばしばある。第11に、認知インタビューは量的調査のすべてのプロセスに関して利用できる方法論的調査ではないが、多種多様な調査法に対応している。第12に、認知インタビューは作成した調査票に誤りがないかの正式な検証手段ではなく、あくまで改善点の示唆をするのみである。第13に、認知インタビューを実施したからといってそのまま調査票を改善することができるわけではなく、調査票の改善には調査票作成者の調査法に関する知識が必要である（Willis 2005: 6-7）。

上記のような特徴を持つ認知インタビューであるが、実際の認知インタビューはどのように行われるのだろうか。以下では、認知インタビューの実施方法を含めた本論文で使用するデータおよびデータの分析方法について説明する。

### III. データと方法

#### 1. データ

本論文では、科研費プロジェクト「性的指向と性自認の人口学の構築——全国無作為抽出調査の実施」によって実施された認知インタビューのデータを分析に使用する。調査は2021年10月から2022年1月にかけて行われ、合計18人の回答者を得た。調査時点における新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、対面または電話・オンラインのいずれでも調査可能となるように準備を行った。以下が認知インタビューの概要である。なお、本調査の実施にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会に審査申請を行い、承認を受けている（承認番号 IPSS-IBRA#21002）。

- ・ 回答者の募集：本調査は、日本在住で日本語の調査票とインタビューへの回答が可能な60代と70代の人を対象とした。回答者の構成が60代20名（男性10名、女性10名）、70代20名（男性10名、女性10名）になることを目標にした。性的マイノリティの当事者も若干名含まれるようにした。回答者は、研究メンバーの知り合いを通じたスノーボール式および公共施設や高年齢層が集まる場所でのチラシ配布を通じて募集した。「調査協力者募集チラシ」を見て関心を持った人から、研究代表者が電話またはメールで連絡を受けた。その際、調査の目的や内容の概要を伝え、その上で参加希望の意思があるかを確認し、ある場合は、調査方法（対面、電話、オンライン）およびインタビュー日時を決めた。電話・オンライン希望の場合、回答者が周囲に誰もいない個室などプライバシーが確保できる場所でインタビューが行えることを確認した。また、回答者の了解を得た上で、書類の郵送のために必要な郵送先住所を提供してもらった。

- ・ 調査方法：回答者に、試験的調査票への記入を依頼した後（10分程度を想定）、調査票の各問の理解や思考プロセスをたずねる認知インタビューを行った（50分程度を想定）。インタビューは回答者1名に対し、調査者2名以上で行った。調査者1が主たる質問者、調査者2が調査の目的や実施方法、同意書の説明、録音、メモ、進行確認を担当した。電話やオンラインの場合は調査者3以降が、他の調査者のインターネット接続に問題が発生した時のために待機した。
- ・ 回答者への報酬：調査方法に関わらず3,000円とした（対面の場合は交通費込み）。途中辞退の場合は1,000円とした。
- ・ 調査内容：試験的調査票には認知インタビュー形式に慣れてもらうための準備的な質問（健康状態、心配ごとを聞いてくれる人の有無、就業状況、雇用形態、ジェンダー意識、政治意識、生年月・年齢、最終学歴、出生国、国籍、宗教、信仰心）と、回答者のSOGIをたずねる質問を含めた。また、階層帰属意識、世帯収入（年収）、貧困状況についても調査票の最後でたずねている。認知インタビューでは、SOGI設問を中心にそれぞれの問いについて、質問文や選択肢の内容をどのように理解したかをたずねる質問をした（上述の付録にある「認知インタビュープロトコル抜粋」参照）。なお、試験的調査票の表紙には、現在協力を依頼した研究チームで全国調査を企画中であり、この調査票は実際の調査に含める予定の質問の中から回答者の意見を聞きたい項目について一部抜粋したものである旨が書かれている。以下が、試験的調査票で使用したSOGI設問である。

問 11 あなたの性別に○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別]（○は1つ）

1 男

2 女

※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。

問 12 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(上で○をつけたもの)と同じだととらえていますか。（○は1つ）

1 出生時の性別と同じ（→問 13 へ）

2 別の性別だととらえている

3 違和感がある



【問 12 で「2 別の性別だととらえている」や「3 違和感がある」と答えた方のみ】

問 12-1 今の認識にもっとも近い性別をお答えください。（○は1つ）

1 男

4 男女の間であると認識している

2 女

5 男女のどちらでもないと認識している

3 男女のどちらでもあると認識している

6 自分の性別が揺れ動いていると認識している

7 その他（具体的に )

問 13 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人] (→問 14 へ)
- 2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人] (→問 14 へ)
- 3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人] (→問 14 へ)
- 4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人] (→問 14 へ)
- 5 決めたくない・決めていない
- 6 質問の意味がわからない (→問 14 へ)

【問 13 で「5 決めたくない・決めていない」と答えた方のみ】

問 13-1 その理由でもっとも近いものは次のうちどれですか。(○は1つ)

- 1 自分は異性愛者ではなく、クィア・パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている
- 2 まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1つに決められない
- 3 自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない
- 4 その他 (具体的に )
- 5 問 13 で使われていた用語や、質問の意味がわからなかった

問 14 これまでにあなたが恋愛感情を抱いた相手について、一番近いものに○をつけてください。(○は1つ)

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| 1 どちらにも恋愛感情を抱いたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ               | 5 ほとんどが女性    |
| 3 ほとんどが男性            | 6 女性のみ       |

問 15 これまでにあなたが性的に惹 (ひ) かれた相手について、一番近いものに○をつけてください。

(○は1つ)

- |                          |              |
|--------------------------|--------------|
| 1 どちらにも性的に惹 (ひ) かれたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ                   | 5 ほとんどが女性    |
| 3 ほとんどが男性                | 6 女性のみ       |

問 16 これまでにあなたがセックスをした相手について、一番近いものに○をつけてください。

(○は1つ)

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1 セックスをしたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ         | 5 ほとんどが女性    |
| 3 ほとんどが男性      | 6 女性のみ       |

## 2. 方法

本節では、まず回答者の属性を概観する。次に、SOGI 設問に関する認知インタビューの分析結果を示す。なお、インタビュー・データを表記する際には、ニュアンス等をできるだけ正確に伝えるため、回答時の表現を可能な限り尊重した。ただし、個人を特定できる可能性のある情報については適宜変更を加え、読みやすさの観点から、(〇〇) で必要最低限の加筆修正を施し、[...] で中略を示している。

## IV. 結果

### 1. 回答者の分布

認知インタビューは 18 人を対象として実施した。ここでは回答者の属性を概観する。

#### (1) 年齢および性別、国籍

回答者の年齢分布は、60 代 14 人、70 代 3 人、80 代 1 人である。それぞれの内訳は、60 代 14 人のうち、60～64 歳が 4 人、65～69 歳が 10 人、70 代 3 人はすべて 70～74 歳、80 代の 1 人は 80～84 歳 (80 歳) である。回答者 18 人の半数強は 65～69 歳で、75～79 歳と 85 歳以上はいなかった。回答者の性別は、男女とも 9 人ずつである。なお、現在の性自認と出生時に割り当てられた性別が異なる回答者はいなかった。性別と年齢を合わせてみると、男女とも 60 代は 7 人 (ともに 60～64 歳が 2 人、65～69 歳が 5 人)、70 代 (ただしすべて 70～74 歳) は男性 2 人、女性 1 人、80 代 (80 歳) は女性 1 人となっている。また、生まれた国、現在の国籍については、18 人全員がいずれも日本と回答した。

#### (2) 仕事

仕事についてたずねたところ、回答者 18 人全員に就業経験があった。内訳は、現在仕事についている人は 9 人、今はついていないが過去についていた人が 9 人で、半数ずつである。性別で見ると、男性では現在仕事についている人が 4 人、今はついていないが過去についていた人が 5 人、女性ではそれぞれ 5 人、4 人で、男女どちらも、現在仕事についている人と今はついていないが過去についていた人はほぼ半数ずつであった。年齢別にみると、60 代では現在仕事についている人が 7 人、今はついていないが過去についていた人が 7 人、70 代ではそれぞれ 1 人、2 人、80 代の 1 人は現在仕事についている。仕事の種類は、現在についている仕事については、自営業主・自由業者が 9 人中 5 人でもっとも多い。このほか、臨時雇い (公務員含む)・パート・アルバイトが 2 人、自営業の家族従業者が 1 人、常時雇用されている従業者 (公務員含む) が 1 人である。今は仕事についていないが過去についていた 9 人の内訳は、常時雇用されている従業者 (公務員含む) が 7 人と大部分を占め、このほかでは派遣・契約・嘱託社 (職) 員と臨時雇い (公務員含む)・パート・アルバイトが各 1 人である。

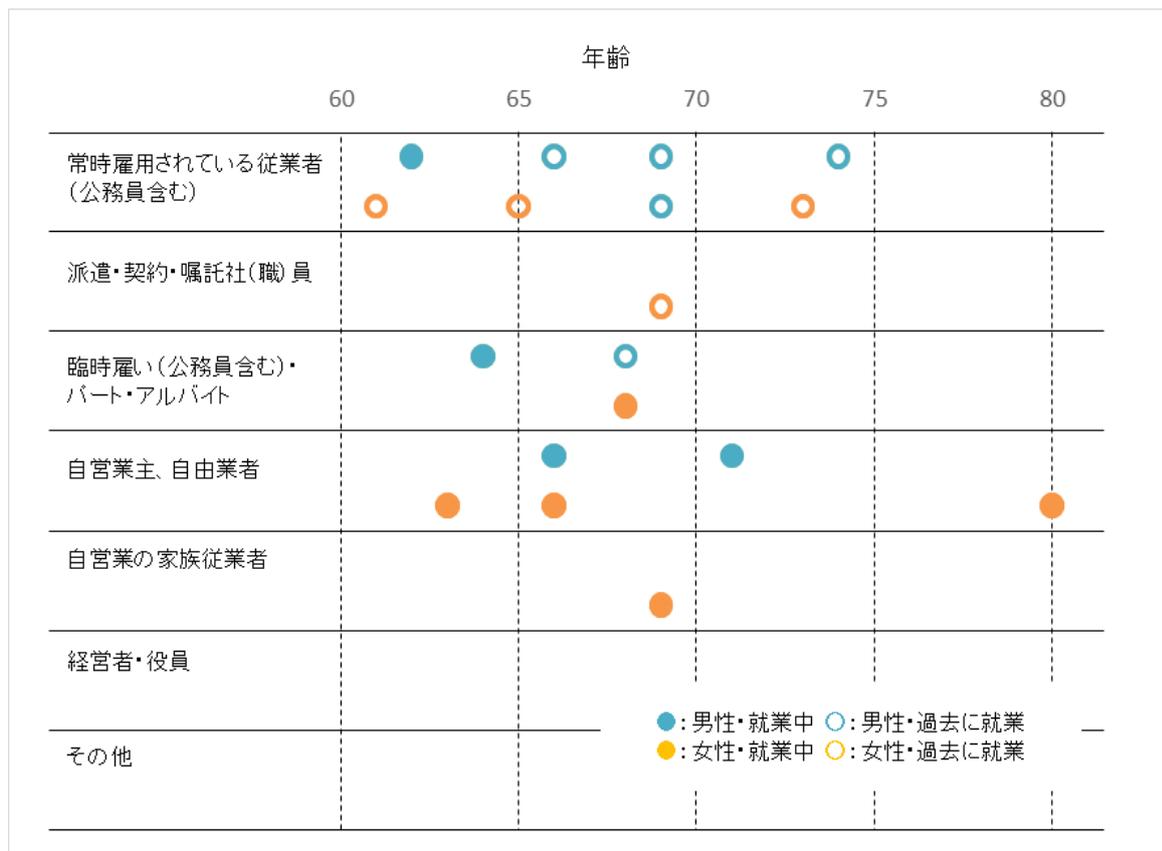


図 1 回答者の仕事と性別・年齢

### (3) 学歴

回答者 18 人の最終学歴の内訳は、大学 7 人、専門・専修学校 4 人、大学院 4 人（うち中退 1 人）、短大・高専 2 人、高校 1 人で、半数以上が大学以上の学歴をもっている。性別にみると、男性 9 人は全員が大学以上で、大学と大学院がほぼ半数ずつである。女性では高校から大学まで 4 区分に分布しており、そのうち専門・専修学校が 4 人ともっとも多い。学歴の分布には男女で差がみられた。年齢別にみると、全体の年齢分布に呼応しており、年齢による特徴的な差はみられない。

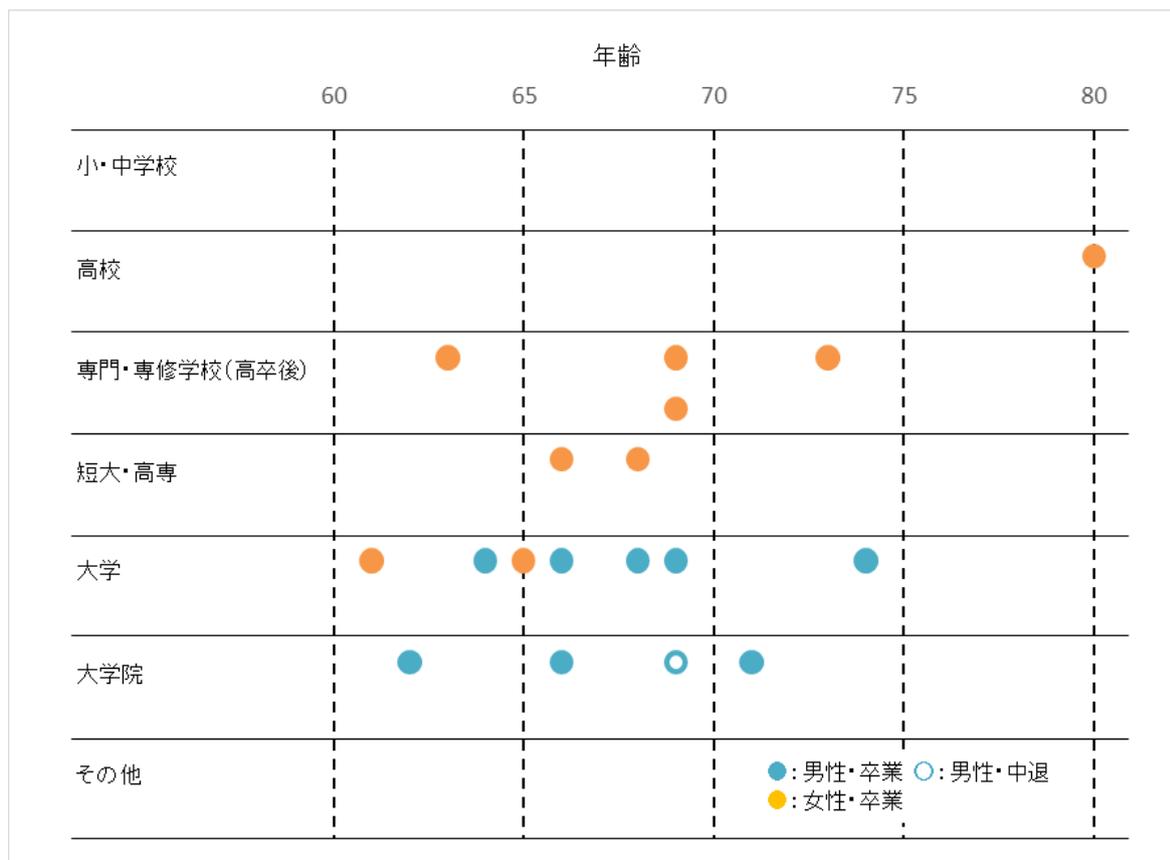


図 2 回答者の学歴と性別・年齢

#### (4) 世帯収入

1年間の世帯収入について、回答者18人のうち最小値は「100～200万円未満」(1人)、最大値は「1100～1200万円未満」(1人)である。もっとも多いのは「400～500万円未満」(9人)で、中央値もこの区分である。性別や年齢とは特に特徴的な関連はみられない。

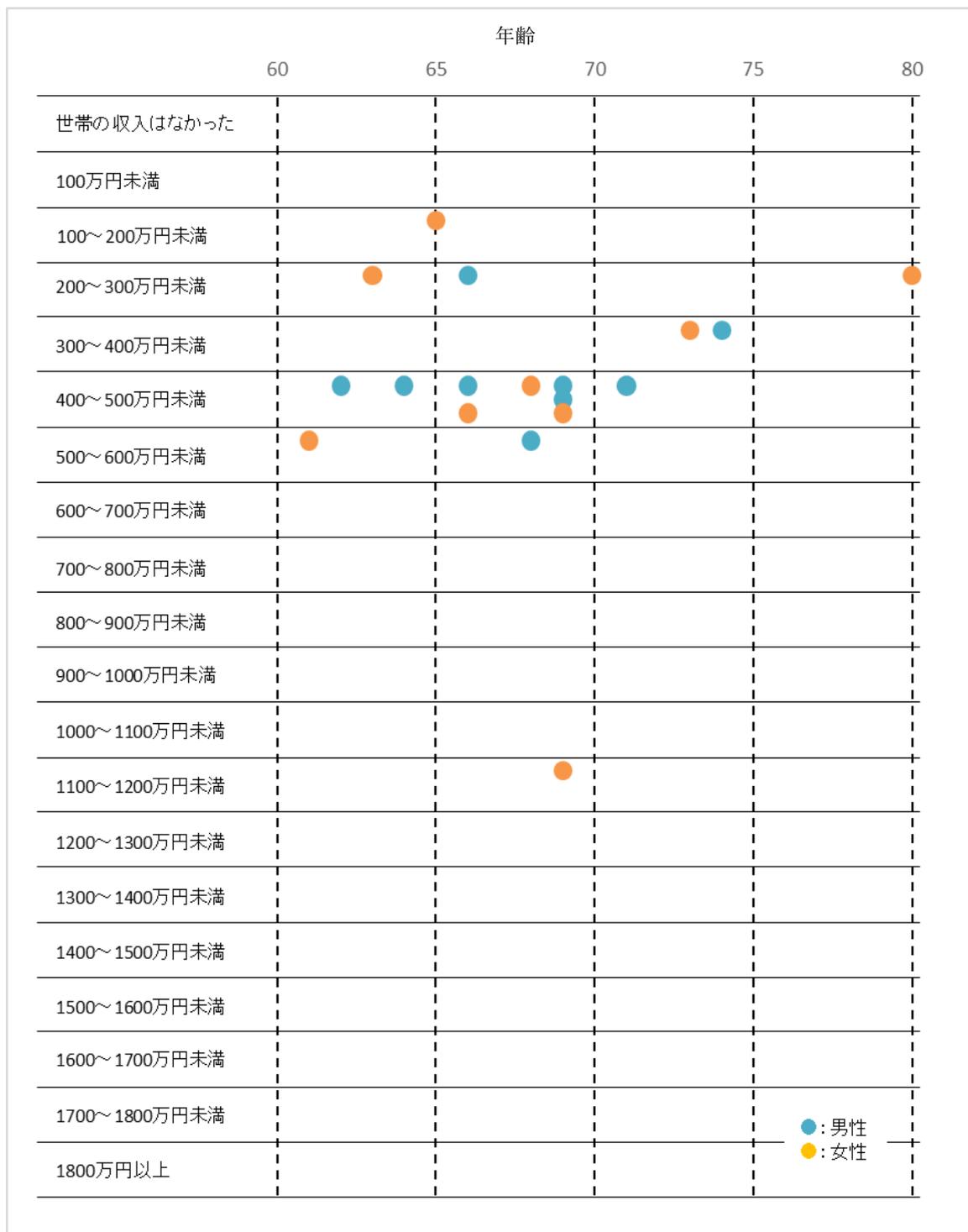


図 3 回答者の世帯収入と性別・年齢

世帯収入と就業の有無との関連をみると、現在仕事についている人は 9 人中 7 人が 400～500 万円未満で、残る 2 人はそれより低い。現在仕事についていない人においては、400～500 万円未満に該当するのは 2 人で、4 人はそれより低く、3 人はそれより高い。現在仕事についていない人のほうが、経済的状況にばらつきがあった。

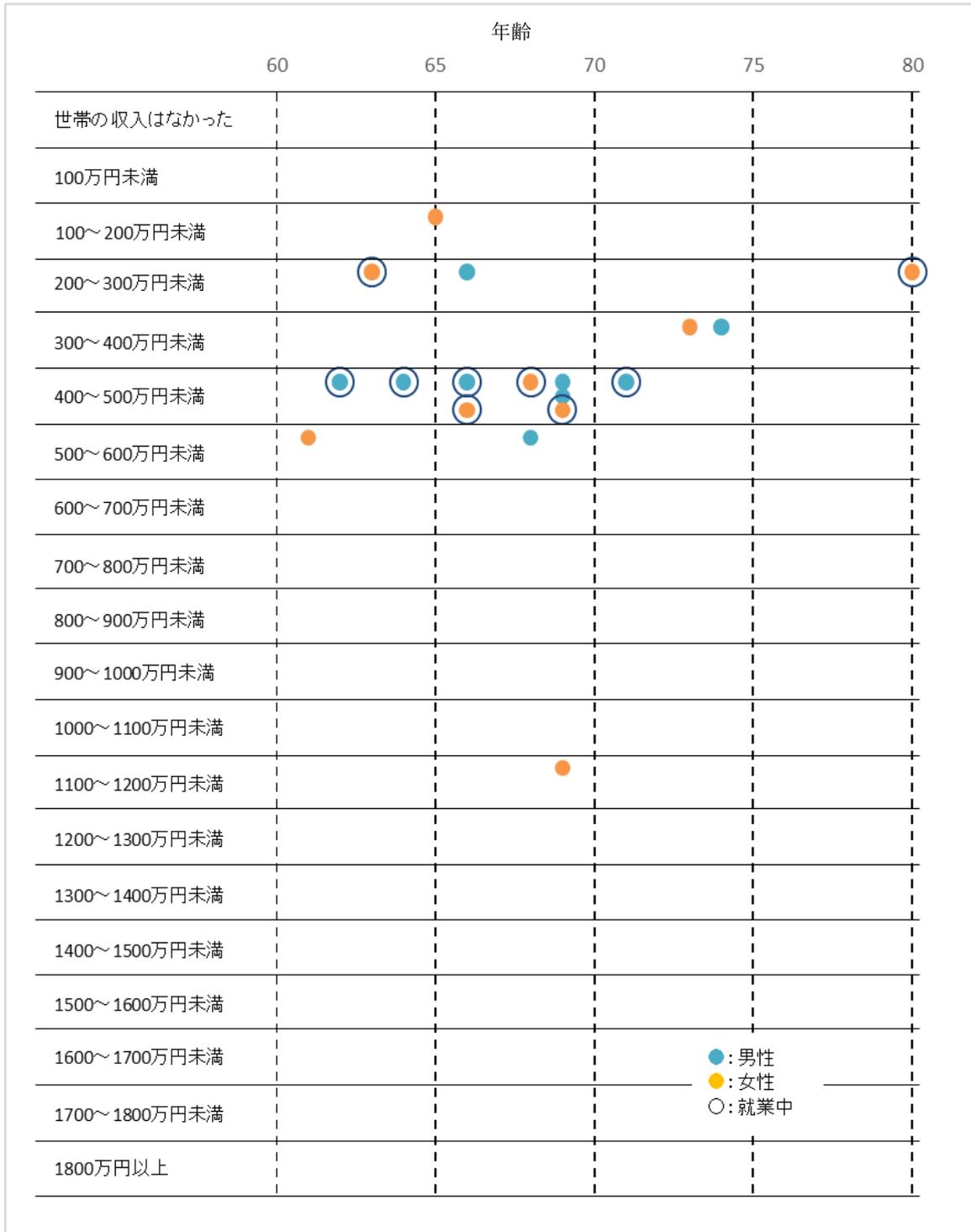


図 4 回答者の世帯年収と就業の有無・性別・年齢

また、世帯収入と学歴との関連をみると、もっとも多い大卒以上の11人の世帯収入は、400～500万円が6人、3人はそれより低く、2人はそれより高い。一方の大卒以外の7人についても、400～500万円が3人、それより低い者、それより高い者はそれぞれ3人、1人で、学歴と世帯収入に特徴的な関係は見受けられない。ただし、学歴は性別による偏りがあり、世帯収入と学歴との関連は世帯収入と性別の関連に類似している。

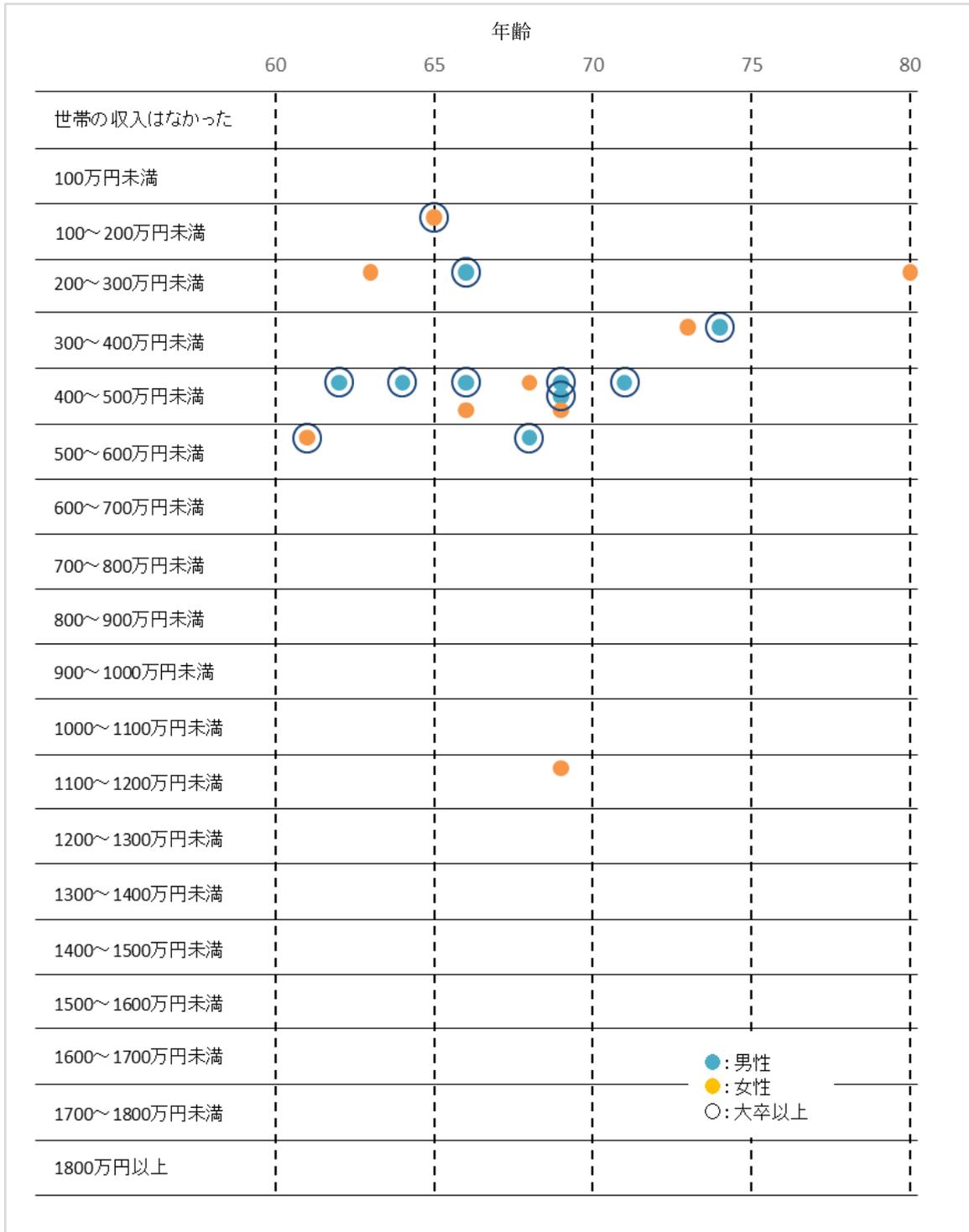
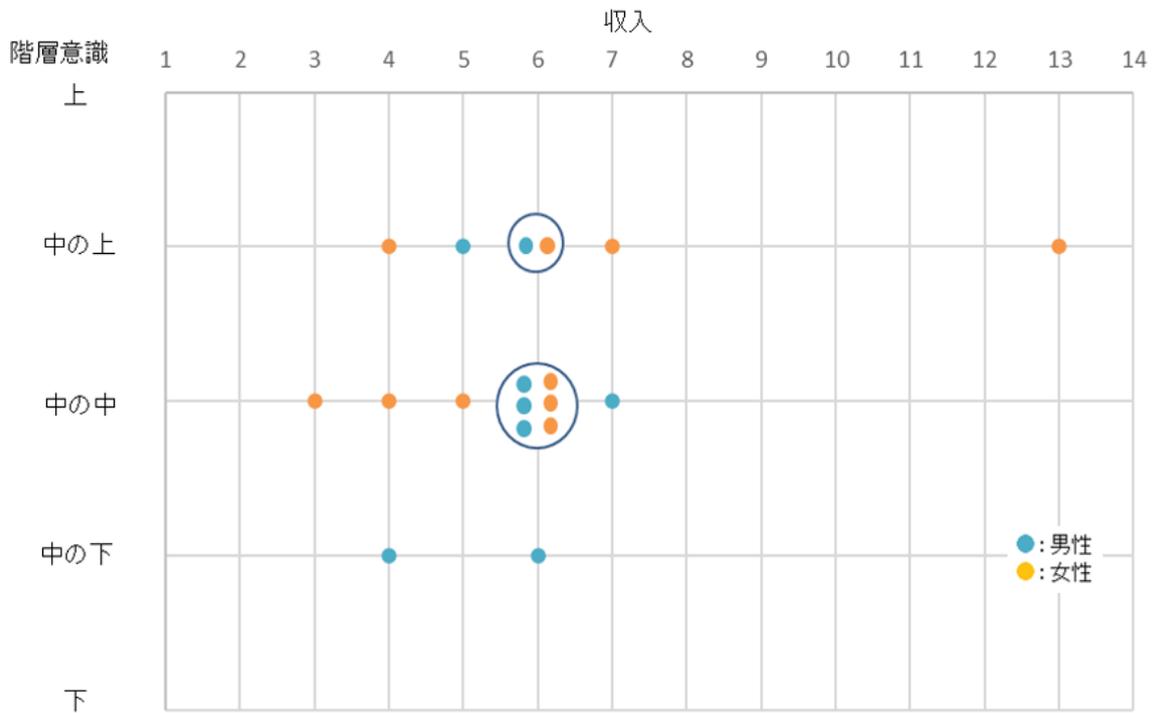


図 5 回答者の世帯年収と学歴・性別・年齢

さらに、世帯収入と階層帰属意識についてみると、まず、階層帰属意識（5段階）の分布は、「中の中」がもっとも多く、18人中10人を占める。ついで、「中の上」が6人、「中の下」が2人で、ばらつきは「中」の中でのものにとどまる。「中の下」と回答した2人はいずれも男性で、同じ世帯収入では男性のほうが女性よりも低い階層帰属意識を示すケースが複数みられる。世帯収入の

区分でもっとも頻度の高い（9人）400～500万円で見ると、「中の中」が6人（男性3、女性3）、「中の上」が2人（男性1、女性1）、「中の下」が1人である。また、もっとも世帯収入の高い（1100～1400万円未満）1人は「中の上」、もっとも世帯収入の低い（100～200万円）1人は「中の中」と回答している。世帯収入が高いほど階層帰属意識が高い、といったはっきりとした傾向はみられない。



収入の区分: 1=世帯の収入はなかった 2=100万円未満 3=100～200万円未満 4=200～300万円未満 5=300～400万円未満 6=400～500万円未満 7=500～600万円未満 8=600～700万円未満 9=700～800万円未満 10=800～900万円未満 11=900～1000万円未満 12=1000～1100万円未満 13=1100～1200万円未満 14=1200～1300万円未満

図 6 回答者の世帯年収と階層帰属意識・性別

## 2. 認知インタビューの分析結果

ここでは、SOGI 設問に関する認知インタビューの分析結果を示す。まずは出生時に割り当てられた性別（問 11）および性自認のあり方（問 12）に関する設問について得られた結果、次に性的指向アイデンティティ（問 13）に関する設問について得られた結果、最後に恋愛的惹かれ・性的惹かれ・性行動（問 14-16）に関する設問について得られた結果について示す。

### （1）出生時性別および性自認のあり方

第 1 に、出生時性別の設問で引っかかる点がある人はいなかった。回答例としては以下のようなものがある。

・ないです。

- ・いや、これは別にありません。一般的にいろんな申請書で、男とか女とか、最近はこれにプラスして、どちらでもないっていう項目の入ったものも時々、見かけるようになりましたけど。
- ・何もなく、あのすんなりと答えられました。
- ・この後のかっこにある出生時の戸籍、出生届の性別というふうに明確に書かれてるので、私でなくっても、どなたでも選びやすいっていうか。
- ・これは私らの年代だと、全然何も。あの普通に。
- ・特に、私の場合は引っかけられないですね。

第2に、設問中に「[出生時の戸籍・出生届の性別]」という文言があったために、間違っただけの回答をする人や回答を変える人はいなかった。設問中に「[出生時の戸籍・出生届の性別]」があることで、出生時の性別と現在の性自認が異なる人がいることを知った上で、この注釈が付いていることに気が付いた人も一部いたが、単なる性別の設問と回答する人も多くいた。また、性的指向と混同している人もいた。しかしながら、回答自体に影響はなかった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・一応、あの（「[出生時の戸籍・出生届の性別]」という文言を）軽く見ましたが、何の疑問も無く2番（「女」）にしました。
- ・いや、今のいろんな方がおられるので、まああのこういうことも付け加えておられるんだなというふうには思います。（調査者：例えば今の出生時とか、戸籍、出生届の性別がここになかったとしたら、あなたご自身の回答は何か変わりますか？それとも同じになりますか？）同じ。同じです。
- ・（調査者：この注の説明があってもなくても、別にこの問の感想というか印象とか、その辺は同じになりますか？）同じだと思います。
- ・見てなかったですね。すぐ、「女」に丸、付けちゃって。（読んでいたとしても）回答は変わらなかったです。
- ・あ、読まなかったです。ただ男か女に、よくある、いわゆる男か女かっていう質問よくありますよね、歳とかと一緒に。そんな感じで、あれで、こっちまであんまり読みませんでした。すみません。
- ・（注は）特にあの、そこもあんまり深く見ないで男か女か丸打ちしましたけど。（調査者：注を改めて読んで気になる点はありますか？）うん。意味がちょっとわからないですね、改めて見ると。でも、まあ丸がすぐ打てると思うんですけど。（改めて注を読んで）うん、意味がちょっとわからないですね、改めて見ると。うん...どうでしょうね、何のことを言ってるのかなあと思いながら。うん...でも、まあ丸がすぐ打てると思うんですけど。
- ・（注を）見ました。さーっと。まあ時代だなと思いました。今はそういう表記になるんだらうなという。昔はそんなこともなく、男女でしたけど、今はこういう表記をしないとイケないのかなというふうに思いました。（調査者：これを見ても迷わず答えられたということでしょうか？）はい。

・今ね。あなたの性別とか、簡単なんだけどね。でもほら、今、時代で。いろんな男の人が実は女の人だったとか、そういうことを考えた上での質問ですよ。と私は思ったんですけど。だから、多様性の世の中だからこんな質問が出てるなっていうのをね。ただの性別なら、そんなの聞く必要ないですもんね。

・これは素直に。出生時の性はなんでしたかって。出生届の届け出はなんでしたかっていう。普通に、こだわりなくだったので。今、よく出生時の性別とは違うことが言われているので、[...]生まれたときの届け出の性別はなんですか、で。

・男で生まれても女に育ちたいとか、女で一生涯を終えたいとか、逆に言うと女で生まれたけれども、あの、他の性でという方もいらっしゃるということかな？

・ただ単に性別です。男か女か。

・や、ただ単に男なんで「男」って丸く打っただけです。

・やっぱり、たとえば、ゲイとかレズビアンとかっていう自覚をもっているのかどうか、それが同じかどうかっていうところ。

第3に、性自認のあり方の設問についても引っかかる点がある人はいなかった。回答例としては以下のようなものがある。

・全然迷いなしです。

・はい。問題ないですね。

・なんでわざわざこんなこと聞くのかなと思ったぐらいで。同じなのにな、と思ったりしたんですけど。はい。それだけです。はい。

第4に、性自認のあり方の設問については、枝問を回答する必要のない選択肢を選んだにもかかわらず間違えて枝問にも回答した人が2名いた。そのうち、設問をよく読まずに回答した人が1名、自分が現在、認識している性別を全員回答すると思って回答した人が1名いた。また、自分は難なく回答できたが、自分の性別に違和感を感じている人は困るのではないか、というコメントをした人がいた。また、性自認のあり方と性的指向の混乱が多かった。問12（性自認のあり方）は何について聞いている質問かという問いに対して、性自認のあり方に関わる問いであるという旨の回答があった一方で、性的指向に関する説明をする人が少なからずいた。しかしながら、それでも本人の回答が間違っているわけではないことがわかった。また、高齢者に性自認の問題は無いのでは、という回答もみられた。選択肢を読んで、自分は別の選択肢にあてはまっている、と思った人はいなかった。回答例としては以下のようなものがある。

・問題をよく見なかったんで、1の、「男」に丸をしてますね。そうか、2（別の性別だととらえている）と3（違和感がある）の方のみが書き込む欄なんですね。ちゃんと読んでなくて、そのまま下に箱があるのを見て、選んでしまいました。

・（調査者：問12のメインの設問で、例えば1（出生時の性別と同じ）っていうふうに答えた人も、今の認識に最も近い性別を答えてもらったほうがいいと思いませんか？）そう理解し

たんですよね、私はね。

・私は別に、普通にスムーズに答えましたけれども、自分の性別に違和感を感じている方は、もちろん引っ掛かるんだらうなという感想です。

・多分、女性男性とよく、ね、あのタレントさんなんかもいらっしゃるけど、男性と生まれたけれど、あんまりそうじゃなくて、女性の格好したり、あの女性と違って、自分がそうだとかって言ったりとかしてっていうのは2番とか3番かなっていう。私は自分が違和感ないからちょっとわかりません。

・よくゲイの方とか、レズビアンの方とかおられますよね。そういう方々の暗示かなっていうふうに。3番の違和感があるという。まあそこまではっきりと自分がまだホモだとかゲイだとかって言うことをまだ言い表せないけどなんとなく自分の中でなんか自分がちょっと違うのかなって思っておられる方々かなっていうふうに思いました。

・(2については、)よく今いらっしゃる性同一性障害とか、ということですよ、(3については、)違和感があるっていうのはやっぱり、自分が女なんだけど、やっぱり男の人に目がいかなくなって女性にいくっていうのが違和感かなと思うんですね。

・ふつうの一般的な結婚を望んでないとか、自分はちょっと男性に興味がないとか、女の人の方がしっくりするとか。

・外観男だけ、心は女やという、そういうことでしょう。違和感があるっていうのも心と体の違うところやわな。それは私自身がこれには関係ないんだけど、そういう人もおるっていうの知ってるから、こういうことについての質問なんだらうなと思うんだけどね。高齢者やったら、こんなのないんちゃうかと思うけど、わからん。それは、はい。

・(調査者：自分が今回選ばなかった選択肢に、実は自分が当てはまっているかもしれないというふうに思いましたか?)絶対違う。まあ、長年生きてても、女として生きてきたから。別に別の性だと思ってはないですね。違和感があるというのものないです。

・(調査者：自分が今回選ばなかった選択肢に、実は自分が当てはまっているかもしれないというふうに思いましたか?)全く思わないです。

第5に、これらの設問に対する抵抗感については、一部に抵抗感を感じる人がいた。主な理由は、狙いがわからない、目的がわからない、何を聞きたいのかと思う、一般的なタイトルの調査で性に関して聞かれるので違和感がある、性に関することはプライベートなことなのでそれを社会に関する意識でまとめられることに躊躇するなどであった。しかしながら、最初から性についても聞くということや、調査目的が表紙・設問の前にきちんと書かれていれば、回答することであった。また、抵抗感のある人にフォローアップ質問としてどこに調査目的を記載するのが適切であるかたずねたところ、調査目的は表紙と設問直前の両方に入れることを希望していた。また、自分は抵抗感がないものの、自分の性に違和感を持っている人は回答しづらいのではないか、という意見もみられた。実際の回答意図についても、抵抗感がある人はやはり回答しない意向を示していた。特に、問11(出生時性別)は回答するが、問12(性自認のあり方)については回答しないという反応があった。ただし、調査の目的や意義がわかれば回答するという人が多かった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・抵抗感無いです。(調査者：無いというのはなぜ無いんですか?) 自分が女性として生まれて女性として生きているので、それを別にあの隠す必要もないし、聞かれたらそれは答えるという。
- ・(抵抗感)はないですね。逆に言えば、別の性だと考えたりとか違和感があると、なかなか答えづらいかな。
- ・私はないです。別に性別に関して、どうだろうな、ああだろうなって思ったことがない。なので、そういうことで悩んでる人にとっては、この質問は大変な質問かなって思いますね。
- ・私はないですけど、抵抗ある方もいらっしゃるかもわかんないですね。もしかしてね。その2番、3番の当事者の方ね。
- ・これはだから、私の場合は全く抵抗感ないです。2番、3番に該当する方がどうなのかっていうと、ちょっとわからないですね、これは。
- ・抵抗感っていうのは自分自身としてはないです。だけど、ちょっと違和感は感じます。何を聞きたいのっていうところですかね。
- ・目的を最初に指定してくれたら、違うんじゃないかと思いますね。(調査者：目的が書いてあって、例えば性の多様性について知りたいです、みたいなことが書いてあれば、書いていないよりは、なぜこういう質問があるのかがわかるという感じですかね?) はい、そう思います。(調査者：そういった説明ですね、なぜこの質問を聞いているのかという説明は表紙にあったらいいと思いますか、それとも問11の例えば直前とか、このアンケートの中にあるのとどちらがいいと思いますか) 私の側は表紙にあった方がいいと思います。
- ・ちょっと違和感。[...]何を意図してっていうのが。あの、もしも、目的がちゃんとはっきり理解できてたら持たないと思うんですが、いきなり日常生活にそういうものがゴロっと来たらびっくりするとか、すごい違和感です。(調査者：問11の前に、以下の質問は例えば性の多様なあり方を知るために、この質問をしています、みたいな注意書きがあったら、抵抗感とか違和感はちょっとは減ると思いますか?) そうですね。無意識に減るんじゃないでしょうか。(注意書きは、)表紙と問の直前と両方にあってほしいと思います。表紙も一応は読みましたが、読んでみて全然さしつかえない感じでしたので、そのままずっと読んでますが、もうこうやっている間に頭の隅に、どっか行ってるでしょう。
- ・(調査者：学術的なアンケートであれば、まあ答えるっていうことですね?) 答えます。
- ・自分は回答できます。(調査者：回答できるよっていうその理由としては何かありますか?) そう聞かれると答え...、一応男で育って男として生活してきて、もうずっと男でできますからね。
- ・回答しない。狙いがわからないから。狙いっていうか、社会に関する意識やお考えを把握に、どうしてこの個人的な性が、とてもプライベートなものが出てくるのかっていう抵抗はあります。性に関することで調査をしたいっていうのをきちんととってくださってれば書きます。問11は答えます。履歴書にも書くので。でも12は微妙かな。
- ・目的を理解すれば、大丈夫(実際にその質問に答えるつもり)ですね。(調査者：もしなぜこういう質問を聞いているのか、というのが、表紙とか問の直前であっても、もし書いてい

ない場合は、答えますか?) 答えません。

・アンケートの主宰者によって変えると思います。アンケートの目的によって変わるんじゃないかな。

## (2) 性的指向アイデンティティ

第1に、性的指向については、日頃考える機会が少なく、異性愛者という言葉も知らなかったり馴染みがなかったりする人が多かった。ただし、設問についてはなんとなくではあるが何をたずねられているのか理解している人が多かった。なお、なぜ性的指向をたずねたいのかについてはわかっていない人が多かった。SOGI 測定法の先行研究では日本においても性的指向アイデンティティをたずねる際の異性愛者の選択肢に「ゲイ・レズビアンではない」という補足説明を追加することが効果的であると示されているが (Hiramori and Kamano 2020)、今回の認知インタビューでも、普段異性愛者という言葉を使わない人が異性愛者の選択肢を選べるようにする上でこのフレーズは効果的であった。回答例としては以下のようなものがある。

・いやもうこんなもう全然考えもしていなかったし。うん。ゲイとかレズビアンとかなんか全然考えていなかったし。よくテレビでそんなことは言っていますが、私にはもう全然関係ないと思っていますので。

- ・異性愛者っていう言葉自体、日常であんまりっていうか、ほとんど聞いたことない。
- ・この問題で (聞きたいこと) は、私はゲイかレズビアンか、異性愛者かなっていうこと。
- ・同性に対する愛情、感情を持ってますかっていうことだと思うんですけど。なぜこの質問がっていう気持ちは、ないわけではないですね。最初に、目的のところでもそういう意識を調査しますって書いてあるので、聞いてきても不思議はないんですけど。
- ・(異性愛者という言葉は) あんまり聞いたことがなくて、(この選択肢をみたときに) ちょっと異性愛者ってなると、ちょっと言葉が強すぎて、ちょっとドキッとしちゃいましたけど、後ろ見たらゲイとかレズビアン等ではないですよ、という意味で。
- ・ゲイ、レズビ...すなわちゲイレズビアン等ではないんで (この選択肢を選んだ)。

第2に、性自認のあり方の設問でもみられた性的指向と性自認のあり方や性別との混同がここでもみられた。ただしそれによって、想定外の回答がなされることはなかった。また、各選択肢の用語については一部理解していないケースもみられたものの、認知インタビューでの回答と調査上での回答に矛盾が見られたケースはなく、各選択肢に関する理解不足が回答へ与える影響はなかった。多くの場合、異性愛者の選択肢のみを見て、他の選択肢は見えていなかった。用語がわからなくても、わかったからといって特に回答が変わることはなかった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・(性的指向の問いは) 自分がどちらの性別であるかっていうのをどういうふうに理解しているか、自覚しているか。
- ・同性愛とかそんな全然そこから見ても別に何も私には関係ないと思って見なかったです。

ほとんど。

- ・回答するときに。もう1番が当たってたので。あとはスルーしました。
- ・たぶん今までにこういう質問を受けたことがないので。うん。ちょっと自分の中でも最初に見た時にまあ1番と丸しましたけれども、こう下のところまで読んでませんけど2番と3番のそういう選択肢もあるのかなっていうのは、ちょっと今まで見たことないアンケートの内容だったので、あのちょっと驚きはしないですけど、あっ、こういう選択肢もあるんだなって思いましたけど、はい。でもまあ自分は違うから、まあ1番でいいわ、みたいな感じで。

第3に、性的指向アイデンティティの設問に対する抵抗感についてはそれほどみられないが、中には問11-12（出生時性別および性自認のあり方）に比べて強いと考える人もいた。ただし、調査テーマや趣旨が理解できれば回答するケースも多く、性の多様性に関心があり知識があると認識している回答者はむしろどんどんやってほしいという考えを示す場合もあった。当事者については抵抗感がみられ、調査目的によって回答するかしないか変えることが明らかになった。一方、マイノリティが調査によって勇気づけられるのではないかという回答もあった。加えて、答えにくい状況にいるマイノリティは性的指向アイデンティティよりも恋愛的惹かれ、性的惹かれ、性関係の相手の性別をきかれる問いの方が答えやすいのではないかという回答があった。また、抵抗感を表明した人は SOGI 設問に限らず生年月などについても詳細すぎると抵抗感を示す場合があった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・抵抗感もあるかもしれないけどね、なにしろ関係ないと思ってしまいます。頭から。私には。
- ・ああ、自分自身だったらちょっと抵抗はあるかもしれないですね、そんなことなんで聞かれないといけないのかっていう。まあ、あるけど、答える、別に答えますけど、別に、うん、はい。
- ・前の11（出生時性別）、12（性自認のあり方）の問いはなんとなくわかる公的な感じで、でもこの下（性的指向）のなんか難しいな。性的なものに関してのツッコミはちょっと違和感がある。[...]自分の回答だったら答えます。
- ・趣旨がしっかり書いてあって、自分が理解出来れば（回答します）。
- ・こういうことのためにこれを質問してますっていう説明があれば、あの答えやすいですよ。ただ、ポンとくると、え、何これ、何でこんなこと聞くのっていうあれがあるので、こういうことのための参考として、こういうことをお聞きしますみたいな感じの説明があったほうが理解しやすいっていうか答えやすいっていうか、ああそうなんだみたいな感じの、質問の意図っていうんですかね。そういうのがあるといいかなっていう。
- ・(用語が)わからなくてもいろいろあるんやなということを、マジョリティの方も気がつく。だから、結果としての数字がどうじゃなくって、こういう言葉を使って調査すること自体[...]いろいろな人がいるんですよということを知らせていただくということで[...]アンケートを取ることによって、そういう効果も期待できるのかなと。
- ・抵抗感あると思います。やっぱり公にしてないっていうのと、クローゼット（=性的マイ

ノリティが自らの性的指向や性自認のあり方を周囲の人に公表していない状態を示す暗喩)で生活してるので、やっぱりあらためて聞かれると、心理的に抵抗がある。アンケートの目標、目的によって変わると思います。セクシュアル・マイノリティの人のために、福祉の充実ですとか、公共の基準が良くなるとかいうことでしたら。

・(アンケートの目的の伝え方について) あまりしつこいと、嫌になっちゃう人もいるかもしれない。ただ、マイノリティの人たちは、多少ちょっと書いてあれば、ちゃんと深読みしてくれるんじゃないかっていうような。マジョリティの人たちは本当にさらっと読んじゃうだけだと思うんで、それほど細かく懇切丁寧に書かなくても大丈夫なような、その人の知識というか、意識によっても変わるとは思いますけど。

・(自分は) マジョリティではないというふうに思っている、まだわからない状態の人も、こう見てたら、あ、自分はこうなんかなと。例えば、13 (性的指向アイデンティティ) の最初の質問でも、アセクシャルなんかなというふうに。ああ、じゃ、そんな人が他にもようさんおるんやというふうに、肯定的な、いい方に考えていただけたら、勇気づけにもなるわけなんです。

・はっきり自分で意識してる人は問題なく答えるかもしれないですけど、心に迷いがあったり、自分は例えば同性愛者がいいんだけど、それを認めたくないような時期っていうのはあったりとか。そうなってくると 13 で断定的な答えがしづらい状況の人もいるんじゃないかと思えますね。だから 14 (恋愛惹かれ)、15 (性的惹かれ)、16 (性行動) のほうが少し答えやすい、私は答えやすいんじゃないかなというふうに想像します。

・僕だったら別に大学出てるんであれですけど、人によっては、ねえ、答えたくない人もいるでしょうし本当にこれ信用して良いのかっていう、あれですね、なんか例えば、そういう人はあんまりいないかもしれないけど、カードのなんかね、暗証番号を使ってるとか銀行のなんか、番号に使ってる、可能性もあるし、だから本当に信用できるのかなとか、そういう数字 (生年月の問い) まで書いてくのが。

第4に、用語理解については、レズビアン・ゲイの意味については概ね理解しており、バイセクシュアルについても馴染みはないものの知っている人が多い一方、アセクシュアルについては初めて聞く人が多かった。自分はある程度、性の多様性等についての知識があると認識している回答者からは、自らはわかるが、同世代の一般の人はわからないのではという回答がみられた。高年齢層特有の回答として、アセクシュアルに説明がついているため、ここに当てはまるのではないかと考える人が出てくる可能性があるという回答がみられた。回答例としては以下のようなものがある。

- ・バイセクシャルわかるよ。(調査者:4番のアセクシュアル、無性愛者って?) わからん。
- ・ゲイとかレズビアンという言葉もわかるやろうか。バイセクシャルなんて高齢者にわかるんやろうか。という疑問を持つな。
- ・私なんかは[...]ゲイとかレズビアンとかバイセクシュアルとか[...]最近でいうアセクシュアルとか、こういうことは学びとしてわかってますけども。われわれと同世代ぐらいの60代

とか、その上の70代のところにアセクシュアルとか無性愛者とかって言われても、なんやそれは、というふうにきつと。なんやこれ、というふうに思うような気はしますね。

・年取るともう、何て言うんですかね、異性っていう感じがだんだんなくなってきましたね。若いときはありますけれど、年取ってくると。そうするとこの4番的ななんか、高齢者っていうんで、まずあのそういう感じがある人もいるかもわからないけど、そういう感情っていうのが若い時はもうあの別に普通のね、あの異性愛者っていうあれだけでも、だんだん年取ってくると、あんまりそういう感じがあまり少なくなってくるっていうんですか、その、ホルモンの関係なのかしら、なんかね。

第5に、既存研究において異性愛者から自分は設問について特に問題ないが非異性愛者にとっては問題があるかもしれないのではと指摘するというような、あくまで回答者本人の意見をたずねているにもかかわらずマイノリティの意見を想像して見解を述べるケースが観察されたが(Hiramori and Kamano 2020)、同様のケースが今回もみられた。回答例としては以下のようなものがある。

・1番(異性愛者)を選ぶ人は抵抗感はないと思いますけども。2(同性愛者)とか3(両性愛者)とか、やっぱりその人たちは、抵抗感がまだあるんじゃないかと思いますけどね。異性愛とかね、ゲイとかレズビアンに、自分はあてはまらないから答えられると思うんですよ。難なく答えると思うんで。でもやっぱりレズとかゲイの人は、多少躊躇すると思うんですよ。私がそうだったら答えないと思う。逆にね。レズビアンだったら、どうだろう。答えないかなっていうのね。あるかな。

・今の社会的規範に左右されてる人というか、そういうサラリーマンで自分がそういう傾向があるかなと思ってる人がいたとしたら、それがこういう調査で仮に5番(決めたくない・決めていない)に答えたとしたら、こいつはちょっとそういう傾向があるんじゃないかなというふうに会社で思われて、すごくマイナスになっちゃうっていうふうに思う人はいるかもしれないですね。だから、そういう意味では、国からこういう調査が来てるけど、どこまで答えていいのかなっていうふうに思うかもしれないですね。

・その人たちの気持ちはわからないので、大っぴらにそういう風になんか訴えてる人はまあ、丸打つんでしょうけど、自分はゲイとかレズビアンとかまあそういったの社会的なこと、なんか望んでる人はまあ、打つんでしょうけどね。まったくなんかやっぱり世間の目であいうのがあって、そうなんだけど、そっとしておいてほしいみたいな人は打たないでしょうし。

### (3) 恋愛的惹かれ・性的惹かれ・性行動

第1に、恋愛的惹かれ・性的惹かれ・性行動については、回答時にそれぞれの問いのたずねることが違うと感じた人もいるが、最初は全部同じことをたずねているという印象を受けた人が多かった。ただし、回答しながら意図するものの違いに気づいた人もいた。また、調査票への回答時に3つとも同じことを聞いていると思っていた人でも、同じだからといって回答を飛ばそうとは考えないという回答であった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・違う。答えは一緒なんですけど、恋愛感情と性的に惹かれたって表現が違うから、なんか、聞いていることは違うのかなと。問13は性愛感情だし、14は恋愛だし、15は性的に惹かれるんは何なんだろうと。ぱっぱと答えたので、あまり考えはないんですけど。ただ、言葉が違う、表現が違うので、なんか、聞いていることは違うのかなっていう気はしました。
- ・これはみんな同じなのかなと。一瞬、と、思ったんですよね。
- ・(調査者:問14は恋愛感情を抱いた相手で、問15には性的に惹かれた相手というふうに表現しているんですが...) 私たち若い頃っていうのは割とあのイコールっていうんですか、近いことが多いので、別になんか、何ていうんでしょう、いちいち考えないっていうんですかね。
- ・一瞬(みな同じことをたずねていると)思って、そのまま2、2、2に。[...]ただ読み解くと、とてもこれはちょっと微妙かもしれない。この段階つけたっていうのには意味があるんでしょうね。きつと作った方からすれば。だからちょっと私は考えなしだったかもしれない。でもそれを見て恋愛だからねとか、性的にだからねとか、それで書きちゃいましたけど。私の中では、一つの事項にしか思えてないから。
- ・(アンケート回答時には3つの問いは同じことを聞いているとは思ったものの、)全部回答普通にいたしました。飛ばそうなんて思いませんでした。

第2に、問いで気になるところや引っかかるところについては特になんかという人が多かった。一方、昔のことまでは覚えておらず高齢層にとっては難しい質問だという意見や、自分の過去の経験から一時的に同性に恋愛感情を抱いた経験をどう答えるか考えた結果、その時の経験も踏まえて回答したという意見もみられた。また、自分のこととは別に、一時的に同性に恋愛感情的なものを抱いた経験のある人はどう答えるのだろうかと思うという回答もあった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・やっぱりこういう質問って、まあ、聞かなきゃいけないからまあ書いておられると思うんですけど、なかなかやっぱり普通っていうこともないですけども、あの高齢者にとってはけっこう難しい、答えるに難しい、かなって、はい。
- ・問14(恋愛感情的に惹かれ)、問15(性的に惹かれ)って、私ぐらいの年になると、昔のこと覚えてない。どうだったかなっていう感じ。10代の頃から、50年ぐらい、結構、記憶って薄まってきたらうんでっていうのも。
- ・ほんのちょっとなんですけど。私は寮に入ってます。「ほとんどが男性」なんですけども、寮に入ったときに、女子ばっかりの寮なので、そういうカップルが多かったんですね、女同士の。で、その片割れのほうの人から強く誘われたことがあったときに、一瞬だけでも揺らいたことがあったというか、若いときですから、そういうことがあったんで。それで、恋愛感情というのは、ここにあてはまるのかな、「ほとんどが男性」、にあてはまるのかな、と。思って。本当、一瞬なんですけどね。でも、そういう気持ち自分がなかったかというのと、一瞬だけでも恋愛感情というか、を持ったことがあったかなと思って。そういう性的なもので

はなかったの、淡い、先輩を思うような感じ？そんな感じだから、それが恋愛と言えるのかどうかもわかんないんですけど。性的なものではなかったの、淡い、先輩を思うような感じ？そんな感じだから、それが恋愛と言えるのかどうかもわかんないんですけど。

・だから、そういうふうな時期とか、相手によっては、(男性として)男性にも恋愛感情的なものは抱くと。[...]一時期、そういうふうに、同性に恋愛感情を抱いたことがあるという経験の人は、どれ選ぶんかなって。

第3に、回答ミスとして、問いと選択肢をきちんと読まず、並び順から「男性のみ」と回答してしまった男性のケースや「男性のみ」と「ほとんどが男性」という選択肢があると認識せず、「ほとんど」の方を選んでしまったケースがあった。提示されている選択肢以外にあった方がいいという選択肢の案は特にないという意見が大多数だったが、無性愛を示す選択肢があってもよいのではという回答があった。むしろ多くの回答者から、選択肢が多く、見慣れないものが多いため、すべての選択肢に目を通さずパッと目についた(見慣れていて目につきやすい単語、漢字の中に出てくるカタカナなど) 選択肢を選んでしまったという指摘があった。回答例としては以下のようなものがある。

・全く質問を取り違えて。前のページからの流れで、同じ流れできて、もう、「男性のみ」っていうふうに丸してしまったんですね。質問をちゃんと読まずに、前の11、12、13の流れで丸をしてしまったという感じですね。[...]目に、セックスした相手ってというのが、目にとまったんで、それを見て(誤りに気がつきました)。

・(自分は女性だが、)これ、「ほとんどが男性」って、「男性のみ」とがあるんですね。2番ですね、問14。「ほとんどが男性」っておかしいですもんね。2番ですね。問15も2番です。それから問16も2番です。男性っていうのが見えたからつけたっていうふうに。ちゃんと読んでないんですよ、ほとんど。こういうアンケートって。

・精神的な、そういう恋に関わる感情と性的な話はちょっと別じゃないかなって。というのは、どこでしたかね、無セックスとか、いろんな方いらっしゃるんですよ。(調査者：無性愛、そうですね)中には恋愛自体をしても性的な行為はしたくないっていう人もいますよね。それは区別したほうがいいんだと思います。

・(他の選択肢は)全然見なかった。ほとんど見るあれなくて。(調査者：パッと飛び込んできた。男性が。)そうです。

第4に、これらの設問に対する抵抗感については、いずれも低かったが調査目的が明記され理解できればという条件付きであった。全般として、答えづらさを感じつつも、質問の必要性が説明されている場合には回答するという態度が目立った。また、問14(恋愛的惹かれ)、問15(性的惹かれ)については抵抗がないものの「セックス」という言葉を使用している問16(性行動)については抵抗がある、または自身では抵抗がないものの高年齢層や「保守的」な人の中では嫌悪感や抵抗感を抱く場合が多いのではないかという意見もあった。また、マイノリティ当事者ではないから答えられるという意見や無記名だから答えるという反応もみられた。回答例としては

以下のようなものがある。

- ・私は抵抗はないですね。
- ・抵抗感はないです。こういうことをちゃんと聞きますよっていうのがあれば。
- ・まあ、この程度、この事で、この程度だったら別に、抵抗ないと思いますけど、その、説明があれば。
- ・やっぱり恋愛とかっていうのは、個人的な、本当プライバシーの部分だと思うので、そこまで別に教える必要がないというか、なんで必要なのかと、もちろん目的がはっきりしてればですけども。
- ・14、15 ぐらいは抵抗はないと思うんですけど。16 になるとちょっと抵抗あるかもしれない。
- ・セックスをした相手とか、そういうのなると、どうしてもこう何て言うんだらう。隠しごとじゃないんですけど、オープンにできるような内容じゃないのかなというふうには思ってる。ということではちょっと違和感あるかな。問 14、15 の方がちょっと抵抗感はあるけど、答えやすいっていう感じ。
- ・(セックスという) 言葉がね。単刀直入にそんなこと言われても、ちょっとね。躊躇しちゃうね。
- ・私は全く。こういうことは大いにやってほしいと思いますけど、それなりに年がたってしたらね、なんでこんなこと聞かれなあかんねや、言うて。言ってみれば(保革意識の設問の)1 番から 7 番の 1 番(保守的)に近い人なんかやったら、汚らわしいとか言ってすぐアンケート調書を破ってしまうような人がいらっしゃるかもしれませぬね。今の日本の状況からすればね。
- ・うん、どうなんだろうな、まあ、答えてもいいかなと思いますけど、別に、ええ、普通なんです。(調査者：はい、その普通っていうのはどういったのが…普通だというふうに?) あ、そうかさっきの、えっと、ゲイとかレズビアンではないんで。
- ・匿名って言われてるので、そこは安心して(答えられる)。
- ・そこについては、さっきの個人情報だったりデータの取り扱いのところが安心できるように書いていただければ問題ないんじゃないかと思うんですよね。無記名ですしね、これ。

## V. 考察

本論文では、60 代以上の高年齢層を対象とした認知インタビューから得られたデータに基づき、高年齢層が量的調査における SOGI 設問をどのように理解しているかを分析した。その結果、性的指向と性自認のあり方についてははっきりと区別・認識されていない一方でそのことが原因で回答を誤るなどのケースは少なく、SOGI 設問に抵抗感を示す人もいたものの調査や質問の目的や意義がわかれば回答するという姿勢を示すことがわかった。また、恋愛から離れている高年齢層がアセクシュアルの説明を聞くと、自分はそれに該当するのではないかと思う可能性もあることが示唆された。

これらの結果から、適切なたずね方を用いれば、諸外国と同様に日本の無作為抽出調査におい

でも高年齢層に SOGI 設問をたずねることは可能であることが明らかになった。高年齢層に対して SOGI 設問をたずねることに関する方法論的研究は国内外ともに限られており、本研究は高年齢層が SOGI 設問に回答する際の認知プロセスを明らかにする一助になると考えられる。また、日本国内では認知インタビューを用いた研究が極めて限られており、認知インタビューの実例とその効用を示すという点でも調査方法論の分野に貢献できると思われる。高齢化の進む日本社会において、高年齢層に SOGI 設問をたずねる方法の研究は今後さらに重要な課題となると予想される。今後とも、調査対象者の年齢にかかわらず用いることのできる SOGI 設問に関する方法論的研究を進め、データを蓄積していくことが重要である。

参考文献

盛山和夫 (2004) 『社会調査法入門』 有斐閣.

轟亮・杉野勇・平沢和司編 (2021) 『入門・社会調査法——2ステップで基礎から学ぶ [第4版]』  
法律文化社.

西村圭司 (2022) 「日本の性的マイノリティの高齢期における諸課題の整理」『ライフデザイン学  
研究』 18: 341-359.

Carr, Deborah, Elizabeth Heger Boyle, Benjamin Cornwell, Shelley Correll, Robert Crosnoe, Jeremy Freese,  
and Mary C. Waters (2021) *The Art and Science of Social Research*, 2nd ed., New York, Norton.

Fredriksen-Goldsen, Karen I. and Kim, Hyun-Jun (2015) “Count Me In: Response to Sexual Orientation  
Measures among Older Adults,” *Research on Aging*, Vol. 37, No. 5, pp. 464-480.

Fredriksen-Goldsen, Karen I. and Kim, Hyun-Jun (2017) “The Science of Conducting Research With LGBT  
Older Adults: An Introduction to Aging with Pride: National Health, Aging, and Sexuality/Gender  
Study (NHAS),” *The Gerontologist*, Vol. 57, No. S1, pp. S1-S14.

Hiramori, Daiki and Kamano, Saori (2020) “Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social  
Surveys in Japan: Findings from the Osaka City Residents’ Survey and Related Preparatory Studies,”  
*Journal of Population Problems*, Vol. 76, No. 4, pp. 443-466.

Hiramori, Daiki, Kamano, Saori, and Iwamoto, Takeyoshi (2021) “Are All of the ‘Undecided’ Sexual/Gender  
Minorities? A Queer Demographic Analysis of an Experimental Study to Improve SOGI Questions.”  
Paper presented at the Annual Meeting of the Population Association of America, St. Louis, MO.  
(2021.5.7)

Neuman, W. Lawrence (2011) *Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches*, 7th ed.,  
Boston, Pearson.

Tourangeau, Roger. (1984) “Cognitive Science and Survey Methods,” in Jabine, T., Straf, M., Tanur, J., and  
Tourangeau, R. (eds.) *Cognitive Aspects of Survey Design: Building a Bridge between Disciplines*,  
Washington, DC: National Academy Press, pp. 73-100.

Willis, Gordon B. (2005) *Cognitive Interviewing: A Tool for Improving Questionnaire Design*, Thousand  
Oaks, Sage Publications.

## 付録

## 認知インタビュープロトコル抜粋

- 
- 問 11 (出生時性別)
- まず問 11 の回答を教えてください。
  - [回答を確認] あなたの問 11 の回答は選択肢 X 「     」ですね
  - この設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか？（どこが引っかかるポイントでしたか？）
  - この質問が何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？  
（別にこれはテストとかをしているわけではないので、正しい理解かそうでないかではなく、この質問を見たときに「あなたご自身」がこれは何を聞いている質問だと思ったのか、どういう答えを書けばいいと思ったのかを回答していただければと思います。）
- 
- 問 12 (性自認のあり方)
- まず問 12 の回答を教えてください。
  - [回答を確認] あなたの問 12 の回答は選択肢 X 「     」ですね（問 12 が 2 または 3 の場合のみ）問 12-1 の回答は Y 「     」ですね
  - この設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか？（どこが引っかかるポイントでしたか？）
  - この質問が何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？
  - 問 12 で X 「     」という選択肢を選んでいますが、なぜこの選択肢を選んだのか教えていただけますか？「出生時の性別と同じ」「別の性別だ」とらえている」「違和感がある」という選択肢は具体的にはどういう状況のことだと思えますか？
  - もしかしたら自分が今回選ばなかった選択肢に実は自分が当てはまっているかもしれない、と思いましたか？それとも思いませんでしたか（自信を持って回答できましたか）？
  - 問 12 には分岐する箇所がありますが、何か回答する際に戸惑ったりしましたか、それとも特に戸惑いませんでしたか？分岐設問に何か回答しましたか？
  - （問 12-1 に何らかの回答を行っている場合のみ）問 12-1 で○という選択肢を選びましたが、○という選択肢の具体的なイメージをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？
  - 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に答えるのに抵抗感があると思えますか、それともないと思えますか？（なぜですか？）

- 
- 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に答えると思いますか?それとも答えないと思いますか? (なぜですか?)
- その他、問 12 について何かコメントしたい点はありますか?
- 
- 問 13 (性的指向 アイデンティティ)
- まず問 13 の回答を教えてください。
- [回答を確認] あなたの問 13 の回答は選択肢 X 「     」ですね (問 13 が 5 の場合のみ) 問 13-1 の回答は Y 「     」ですね
- この設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか? (どこが引っかかるポイントでしたか?)
- この質問が何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか?
- 「異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人]」というのは具体的にはどういう人のことを指していると思いますか?
- それでは、「ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]」「バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]」「アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]」「決めたくない・決めていない」「質問の意味がわからない」というのは、それぞれ具体的にはどういう人のことを指していると思いますか?
- もしかしたら自分が今回選ばなかった選択肢に実は自分が当てはまっているかもしれない、と思いましたか?それとも思いませんでしたか (自信を持って回答できましたか)?
- 選択肢について、何か他にあったほうがよいものはありますか、それとも今のままで問題ないと思いますか?
- 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に答えるのに抵抗感があると思いますか、それともないと思いますか? (なぜですか?)
- 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に答えると思いますか?それとも答えないと思いますか? (なぜですか?)
- 問 13 には分岐する箇所がありますが、何か回答する際に戸惑ったりしましたか、それとも特に戸惑いませんでしたか?分岐設問に何か回答しましたか?
- (問 13-1 に何らかの回答を行っている場合のみ) 問 13 で「決めたくない・決めていない」を選んだ理由をご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか?
-

---

	<input type="checkbox"/> その他、問 13 について何かコメントしたい点がありますか？
--	---

---

問 14-問 16 (恋 愛的惹かれ、性 的惹かれ、性行 動)	<input type="checkbox"/> まず問 14, 15, 16 の回答を教えてください。 <input type="checkbox"/> [回答を確認] あなたの問 14 の回答は選択肢 X 「     」で、問 15 の回答は Y 「     」、問 16 の回答は Z 「     」ですね <input type="checkbox"/> これらの設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか？ (どこが引っかかるポイントでしたか？) <input type="checkbox"/> これらの質問がそれぞれ何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？問 14, 15, 16 ではたずねている内容は同じだと思いますか、違うと思いますか？ <input type="checkbox"/> 問 14-16 で、それぞれ X、Y、Z という選択肢を選んでいますが、なぜこの選択肢を選んだのか教えていただけますか？他にこれも自分にあてはまるかもしれない、などと迷った選択肢はありましたか？ <input type="checkbox"/> 選択肢について、何か他にあったほうがよいものはありますか、それとも今のままで問題ないと思いますか？ <input type="checkbox"/> 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に答えるのに <u>抵抗感</u> があると思いますか、それともないと思いますか？ (なぜですか？) <input type="checkbox"/> 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に <u>答える</u> と思いますか？それとも答えないと思いますか？ (なぜですか？) <input type="checkbox"/> その他、問 14-16 について何かコメントしたい点がありますか
--	---

---